

## **V** 管理運営計画

---

## 1 管理運営の方針

### (1) 調査・研究体制の強化

- ・新博物館は、縄文文化と貝塚に関わる調査・研究・普及の拠点施設の役割を担うため、その基盤となる調査・研究・普及事業を行うための人員を確保し、組織体制を拡充する必要があります。
- ・特別史跡に指定された標準遺跡として発掘調査・研究を推進するとともに、外部の研究機関や研究者とのネットワークを形成する拠点施設としての役割も重視し、より一層の連携拡大を図ります。
- ・調査・研究体制の強化のため、科学研究費の応募資格を有する研究機関としての指定を目指します。

### (2) 「みんなでつくる・育てる博物館」を体現する運営体制の構築

- ・新博物館は現博物館と比べて施設規模が大きくなり、体験学習やワークショップなど、活動の幅が広がり、市民や関係機関など多様な主体の参画による博物館活動を展開することになります。それに対応できる運営体制を構築します。
- ・これまでの取組みで構築されてきた市民などによる活動をより一層支援し、その活動の活性化を図るとともに、新たな取組みや参画の仕組みを導入し、より多くの参画を促進します。

### (3) 活発な博物館活動を持続的に展開するための工夫

- ・公開承認施設の基準に適合する施設を目指し、全国の博物館から重要な遺物を借用して開催する魅力的な展覧会も積極的に行います。
- ・長期にわたり活発な事業活動を展開できるよう、民間活力の導入などの最適な手法を検討し、効率的な運営の仕組みを構築します。
- ・新博物館の活動や運営に対する市民や利用者の声を的確にとらえ、運営や整備に反映できる評価・改善システムのあり方を検討します。
- ・事業活動の展開にあたり、協賛などの外部資金の確保に向けた取組みを積極的に展開します。

### (4) 市民や利用者の満足度を高める運営の実現

- ・高齢者や障害者、子どもたちなど、誰もが利用しやすい施設を目指し、多様な利用者や利用形態に対応したきめ細やかなサービスを提供します。
- ・誰もが気軽に利用できるよう、市民や利用者の立場に立った開館時間や利用料金などを検討します。

## 2 管理運営方式

新博物館の運営方式については、調査・研究を中心に直営を維持します。また、増加する業務の効率化とサービスの向上を目指し、包括的な民間委託等の導入について、次の条件を踏まえた検討を行います。

### (1) 貴重な資産の保全・継承、活用に向けた持続性や専門性の確保

特別史跡や貴重な自然環境を保全し、次世代に継承するとともに、未来に向けた活用を図るためには、博物館としての中長期的な活動方針に基づき、専門的知識や識見を有する館長の下、学芸員が責任感や高い意識を持って安定的・持続的に調査・研究などの博物館活動に従事できることが求められます。こうした環境を実現し、文化財の取扱いに習熟した学芸員の育成やノウハウの蓄積・継承を図ることが重要です。

### (2) 公益的視点に立った連携体制の確保

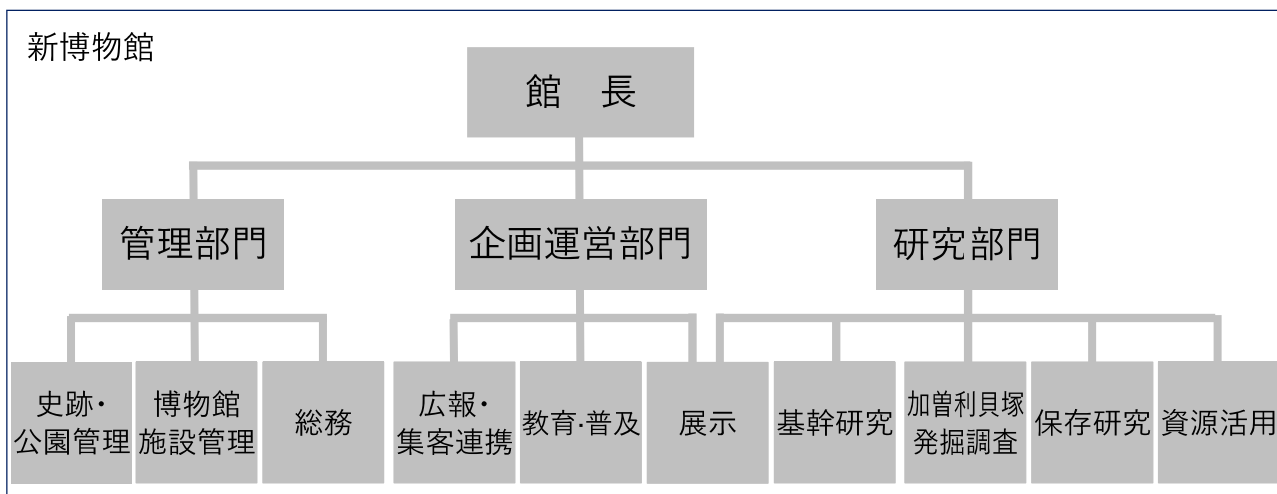
周辺エリアと連携したサテライト周遊ネットワークを実現するためには、地域振興の牽引役として、多様な主体とのネットワーク構築が求められます。こうした公益性の高い事業を展開するとともに、具体的な連携事業の展開に必要なノウハウを提供できることが求められます。

### (3) 市の施策との連動

市の文化振興施策や地域振興施策を反映した運営が求められます。

### 3 管理運営体制のイメージ

事業活動を展開するためには、次のような機能を有する体制が望まれます。

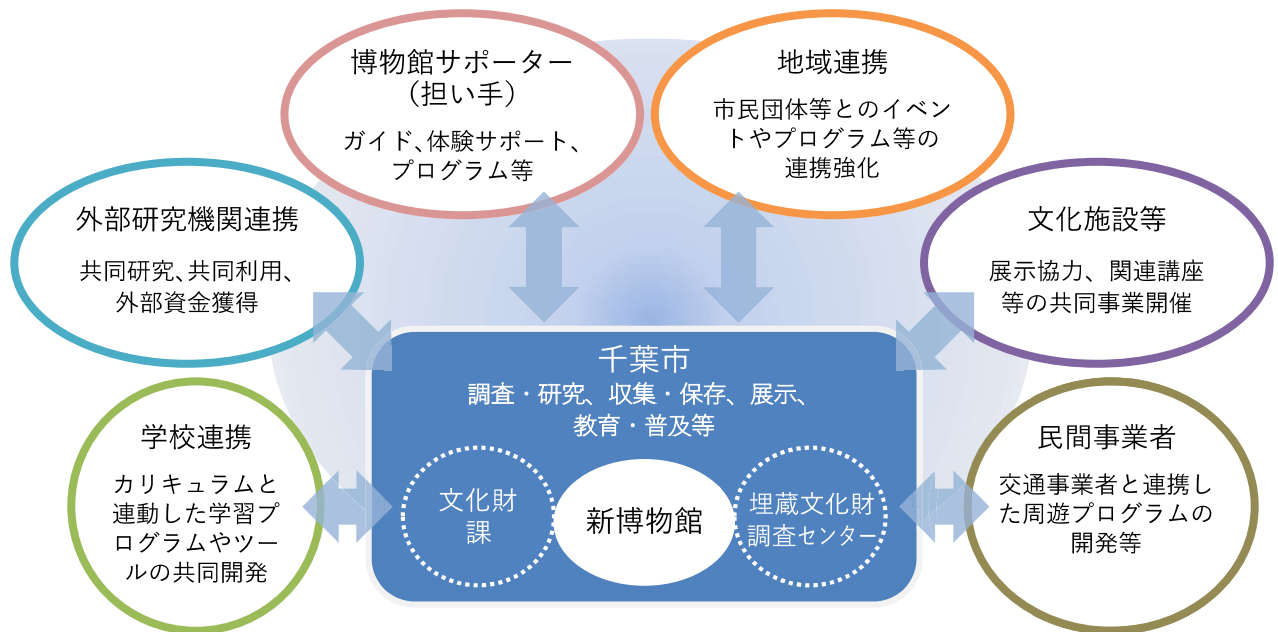


#### 【主な業務】

部門		主な業務分担	展示	研究資源化	市民協働
管理部門	史跡・公園管理	史跡・公園・植栽の管理	-	-	史跡・公園の維持管理
	博物館施設管理	施設維持管理、空調設備運用管理 文化財IPM管理	-	-	文化財IPM 日常管理
	総務	総務・庶務、人事、受付・案内	-	外部資金管理	-
企画運営部門	広報・集客連携	広報、Webサイト・SNS更新 年報等の発行、集客連携 サテライトネットワーク運営	企画展等の 広報、 展示評価	企業連携、 外部資金獲得	SNS等による 情報発信
	教育・普及	史跡ガイド、展示解説ガイドの育成 縄文体験・イベント・プログラムの企画・運営 学校連携、団体受入対応	展示の企画・実施、 展示解説の企画・編集、 企画展連携プログラムの企画・運営	-	学校連携、 サテライト連携
	展示	常設展示の展示替え 資料収集、展示解説 企画展の企画・実施		-	展示解説・ 体験サポート
研究部門	基幹研究	縄文時代の文化と社会や貝塚に関する調査・研究 常設展示の展示替え 企画展の企画・実施	-	縄文文化や貝塚に関する共同研究、 共同利用	調査・研究
	加曾利貝塚発掘調査	加曾利貝塚発掘調査 調査結果の整理・研究 常設展示の展示替え 企画展の企画・実施		加曾利貝塚に関する発掘実習、 共同研究	発掘・調査
	保存研究	博物館環境・文化財IPM 遺物の保存処理と化学的分析調査 発掘時の保存処理等 露出展示遺構の保存	-	露出展示遺構に関する共同研究 化学分析に関する共同研究	文化財IPMに関する協働
	資源活用	収蔵資料・資料データベースの整理・保管・利用 大学等外部研究機関との連携 研究紀要等の編集	資料情報や資料の提供	大学等との共同研究・共同利用の受入	市民等との共同研究・共同利用の受入

#### 4 「みんなでつくる・育てる博物館」に向けた考え方

- ・新博物館の整備にあたっては、計画段階から市民の参画を促進し、大学などの外部研究機関の協力により、多様な主体が活動しやすい施設づくりについて、みんなで検討します。
- ・開館後の運営に向け、複数の主体が関わる運営の仕組みづくり、連携・ネットワーク強化に向けて、博物館サポーター（担い手）、大学などの外部研究機関、学校連携、地域連携、などについて最適なあり方を検討します。



##### (1) 博物館の研究資源化に向けた考え方

###### ア 収蔵資料等の活用

- ・収蔵資料に関する情報の公開・発信、パブリックドメイン化
- ・収蔵資料データベースや図書室の公開
- ・他館との展示連携など収蔵資料の積極的な公開・活用

###### イ 共同研究の導入

- ・大学や大学院などの研究機関との共同研究
- ・科学研究費助成事業をはじめとした外部の競争的資金の導入
- ・発掘データ、研究論文等の公開・発信、パブリックドメイン化

###### ウ 施設や史跡の活用

- ・大学・大学院などの研究機関との博物館施設や史跡の共同利用の推進
- ・発掘実習、博物館実習の受入など大学の専門職教育との連携

## (2) 協働による活性化に向けた考え方

### ア 協働の仕組みづくり

- ・「NPO法人加曽利貝塚博物館友の会」、「加曽利貝塚土器づくり同好会」、「加曽利貝塚ガイドの会」、「加曽利貝塚自然の会」、「坂月川愛好会」、「縄文の森と水辺を守る会」など実績のある団体の活動の継続・発展
- ・館内や館外で新たな活動展開をするための人材の募集と育成
- ・博物館を含めた史跡全体の運営支援のための、新たなサポート体制づくり



### イ 広報

- ・加曽利貝塚とサテライト周遊を組み合わせたツアーなどに関する情報を、観光協会、民間事業者と連携して発信
- ・市民やインフルエンサーによるSNSでの情報発信を促進する仕掛け

### ウ 史跡・公園管理

- ・博物館サポーターと連携し、史跡・公園管理を推進
- ・公園で展開する体験プログラムの企画・運営

### エ 調査・研究

- ・市民による調査・研究を支援
- ・市民との共同研究や共同利用の仕組みを導入

### オ 展示解説

- ・博物館内及び史跡において、博物館サポーターとの連携による展示解説ツールの開発や展示解説ガイドを展開

### カ 学校連携

- ・学校教諭との共同による、カリキュラムと連動した学習プログラムの開発
- ・博物館サポーターとの連携による学校団体の見学受入体制の拡充

### キ サテライトネットワーク

- ・周辺エリアや市内文化施設、商業施設等との連携イベントの開催
- ・電車・モノレール・バスなどの交通事業者と連携した周遊プログラムの開発
- ・博物館や史跡を拠点としたイベント開催などによる地域活性化

## 5 開館形態

より多くの市民や利用者が気軽に訪れることができるよう、開館日や開館時間、利用料金を検討します。

### (1) 休館日、開館時間

- ・資料や展示、施設の適切な管理を行う必要があることから、一定の休館日や特別休館日の設定は不可欠です。こうしたことを踏まえ、多くの人が利用しやすい休館日のあり方を検討します。
- ・開館時間は、管理運営の効率性と市民や利用者の利便性のバランスを勘案し、柔軟で弾力的な時間設定を検討します。

### (2) 利用料金

- ・常設展示等の観覧については、受益者負担の観点から、原則的に有料とする方向で、減免制度と合わせて、検討します。
- ・電車・モノレール・バスなどの交通事業者と連携した周遊プログラムなどの導入も検討します。
- ・撮影や写真原版使用等の資料の特別利用に関する料金設定についても、今後検討します。

